

いよいよ「暑さ本番」という時期になりました。ですが横浜では「戻り梅雨」といいますか、日差しは強烈ですが、雲も多い日が続いています。

さてこの時期になると、自身の専攻を決める2年目研修医の先生達も増えてきます。昔は結構ざりざりまで迷う人が多かったのですが、今は専攻医のプログラムに申し込みをしなくてはならないので、なかなか大変です。

ですが、最近見学に来てくれたとある学生さんの大学では、その昔のストレート入局に近い形がまだ残っていると。青田買いですね。それには少しびっくりしました。

1年目の先生との面談を終え、今は2年目の先生の半分くらいとお話をしましたが、今年は内科に進む人が多い印象です。まだ決まっていない人もいますが、「面白い」と思う専攻科であればその先もずっと続けられます。学生の頃に思った印象と、実際に自分で責任を持って患者の診療を行った際の感じ方はきっと違うと思います。もちろん、途中で方針転換することになんの妨げもありませんが、それも結構大変に思います。

「癌は未告知、隠すもの」の時代に受け持った患者さんに、その衰えの理由を聞かれても答えられず、「癌診療はとてもできん」と思ったのが、私が麻酔科になった理由の一つです。

専攻医プログラムは、種々の施設で持っています。その多くは大学ですから、再び「入局」という言葉が前面に出るようになりました。ですが昔のような入局制度はありませんので、どの医局でも「人を如何に育てるか」に心配りをしています。自身がその後を考えている大学とつながりが大きい病院を選ぶのも一つの初期研修病院を選ぶやり方でしょうか。



消化器内科に決めた、とのこと。内視鏡検査にも身が入りますね。